

1. 提案

〈義務教育学校の学年割りについて〉

4－3－2制 として

1～4年生＝前期学年 5～7年生＝中期学年 8，9年生＝後期学年
〈呼び方は仮称〉

〈理 由〉

- 子どもの発達段階に合った学年グループ割りである。
- 3つのステージに活躍の場があり、個々のリーダー性を引き出す場面が増える。
- 3つの学年割りグループにすることにより、学級担任制から教科担任制（教科教室制）に段階的に無理なく移行することができ、学習状況の向上が期待できる。 等

2. 話し合いの内容や気づいた点 （第1回目の話し合いより）

〈校舎・施設・設備について〉

○校舎増築ができないのであれば、市民にアピールできる教育的意図とその施設・設備の設置が必要ではないか。以下は例である。

- ・情操教育を育むための生活科スペース、栽培実習の畑などを中庭に
- ・スクールバス通学に対応し、体力維持増進のためのアスレチック施設を南グラウンドに
- ・外遊びをしたくなるように外回りにウッドチップを敷きつめる
- ・低学年の感性を育むリラックス読書スペース など

○トイレについて

- ・ジェンダーフリーのトイレ ・障がい者用のトイレ

○小学生（特に低学年）のための危険個所の改善

- ・階段のすきま、手すりのすきまなどの改修

○部活動地域移行に向けて

- ・3階の音楽室については、校舎東側の非常階段から行き来できるようにし、東アトリウムの階段手前にシャッターを設置

○工事期間中について

- ・生徒の授業が不利にならないような配慮 ・その間の教科教室制についての検討